



新型コロナウイルス感染症対策本部  
(事務局：がん感染症疾病対策課)  
担当：猪毛尾（いけお）、中山  
内線：3327、3083  
直通：092-643-3268（患者情報担当）

## 新型コロナウイルス感染症の検査体制を強化します ～「次世代シーケンサー」・「迅速試薬キット」を導入～

- 県では、これまで、県内のPCR検査体制を充実させるため、県保健環境研究所の検査機器の増設、民間検査機関におけるPCR検査の実施、ドライブスルー方式による専用外来の設置などを進めてきました。
- 検査体制をさらに強化するため、新たに、県保健環境研究所に「次世代シーケンサー」及び「迅速試薬キット」を導入します。
- まず「次世代シーケンサー」は、患者から検出された新型コロナウイルスの遺伝子配列を高速で網羅的に解析することができます。  
その解析情報を使って、専用データベースにある世界や日本各地の新型コロナウイルスの遺伝子配列と比較することにより、同一の遺伝子配列を持つウイルスが発生している場所や集団とのつながりを知ることができます。
- 現在、保健所が行う疫学調査は患者からの聞き取りが中心で、本人からの情報が得られないことにより、患者間のつながりを辿ることができず、感染経路不明者となるケースがあります。  
この機器を使うことにより、感染経路不明者の感染経路の推測、患者間のつながりや感染の広がりの追跡が可能となり、クラスターの発生予防や感染拡大の抑制につながります。
- 次に「迅速試薬キット」です。PCR検査については、6月時点の県内の一日当たりの検査数は、県、両政令市の保健環境研究所、民間検査機関を合わせて約850件程度でした。  
今回、県保健環境研究所に新たに「迅速試薬キット」を導入することにより、検査時間が大幅に短縮し（約6時間→約3時間）、一日あたり検査可能件数は200件から300件に増加します。  
さらに、民間検査機関の検査件数が増加するとともに、大学や民間医療機関の協力体制ができ、県内の一日当たりの検査数は、約2,300件程度となっています。

<参考>

(1) 次世代シーケンサー

- ・新型コロナウイルスの遺伝配列を網羅的に解読できる機器。
- ・新型コロナウイルスはランダムに1年間に約25回変異すると言われており、この機器を使って変異箇所を調べることで、多くの患者から分離されたコロナウイルスの感染経路の推測が可能。

【導入場所】保健環境研究所

【導入時期】令和2年7月末（予定）



写真：次世代シーケンサーの一例

(2) 迅速試薬キット

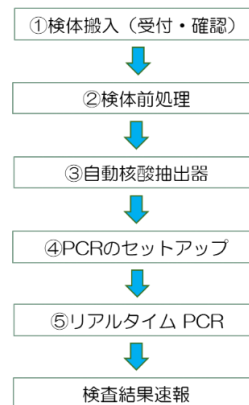
- ・新型コロナウイルス検査に必要な調整済み試薬が含まれており、これまでの煩雑な準備作業の一部が不要となる。
- ・このキットを使用することにより、（数十件の検体であれば）検査時間を従来の約6時間から約3時間に短縮することが可能。

【導入場所】保健環境研究所

【導入時期】令和2年7月（導入済）

※迅速試薬キットでは、核酸抽出とPCRを行うための試薬の添加が1つのチューブの中で行われる。

1. 自動核酸抽出器使用時



2. 迅速試薬キット使用時

